

平和な世界の建設を人間探求で

(平成28年7月2日 ～ 7月3日 第30回世界天才会議 出展論文)

ドクター中松 ゴールド会員 高橋 弘子

1、人間は、どうしたら、戦争をせず、殺し合いや、一方的な殺戮や、傷つけあうことを止めて、死んでからでなく、生きている時に、この世での極楽を感じる事が出来るのか。

1)、世の男性の、ほとんどが、肉弾接待や毒饅頭、名誉提供には、絶対的に弱いといわれている。

その事例のひとつとして、過去において、大蔵省のノーパンしゃぶしゃぶがあった。

ノーパンしゃぶしゃぶとは、**エンターテインメント・レストラン**の一種。実態は**ミニスカート**の下が

ノーパンの女性店員が接客するしゃぶしゃぶ料理店、もしくは風俗店である。

東京・新宿の高級ノーパンしゃぶしゃぶ店が、大蔵省接待汚職事件で大蔵官僚(当時)接待の舞台のひとつとなっていたことが報じられたことから、1998年(平成10年)頃に話題となった。

主に東大法学部出身者のキャリアが、国の権力を傘に著て、企業からの接待を受け、企業に有利な法律や行政指導を行わせた見返りなのである。

2)、それでは、女性は何に弱いのか？

やはり、同じように、お金や名誉やスマートな男性にあこがれて生きていく。

下記は、それを想像させる事件である。

2009年(平成21年)8月2日、借りていたマンションの同室でホステスとMDMAを服用してホ

ステスが死亡した事件が発覚し(押尾学事件)、麻薬 MDMA 服用の容疑で逮捕された。被害者・田中香織さん。当事者の押尾学は、悠々自適の生活をしていると報道されている。

3) 、押尾学はなぜ悠々自適なのか……「森喜朗元首側近から 2 億円の口止め料」情報を追

う[日刊サイゾー](#) 2015 年 9 月 7 日。亡くなったホステスと祐喜氏が一緒に写った写真があったり、彼女が出入りした銀座のクラブに押尾と祐喜氏が常連だったとの証言などから、事件当時一緒にいたのではないかという疑惑が浮上したこともあった。

こうした話は同時期の衆院選の最中でかき消されていったが、このときささやかれていた話が「元首相の側近から、押尾のタニマチだったパチンコ業界関係者を通じて、2

億円の“口止め料”が払われた」とするものだ。

祐喜氏が事件に関与したという証拠は何もないが、押尾逮捕後の10年、飲酒運転でコンビニに突っ込む大事故を起こして県警に逮捕されており、このときは「車から降りる際に足下がよろめき、意味不明な言葉を発していた」という報道もあり、ドラッグ使用のウワサも流れた。この事故をきっかけに議員辞職した祐喜氏だったが、まるで薬物依存者のようにその後は体調不良を繰り返し、翌年にこの世を去っている。

押尾を陰で支えると見られる「Sさん」なる人物が当時の政治家の秘書だったことに前出記者は「もしかすると口止め料を小出しに支払う役目なのでは」と疑う。

確かなことはわからないが、通常の出所者であれば人目に触れずに地味な生活を強い

られるところ、押尾の場合は横浜のキャバクラに出入りするなど派手に活動している。

白昼堂々、新恋人とのキスを撮られた写真も、別の記者から「あまりに撮られすぎた感のあるヤラセスクープっぽい」と指摘されるほどだ。

事件について黙っておけば現在の気ままな生活を続けられる……なんてことはあり得ないと思うが、悠々自適の押尾からはそんな疑惑も信憑性を帯びてしまいそうだ。

(文=ジャーナリスト・片岡亮)

4)、そして、この世の生物や動物は、子孫繁栄を目的として、花は咲いて、実をつけて、ちようちょは飛んできて、甘い蜜を求める。

しかし、その時代、時代の、社会のルールとか、法律もあり、子孫繁栄が思いどおりにいかず、そこで、混乱が起きてくる。

たとえば、今、メディアで騒がれている舛添要一都知事（2016年6月15日現在）の女性に対する対応の情報が巷間に広まっている。

乱脈な女性関係と中絶させたことを得意げに語る残虐な性質

舛添氏の女性関係は乱脈を極め、Aさんは『俺は十代の頃はいくらセックスしても子供がで
きないから、精子が少ないかと思っていたが、それからぼんぼん出来ちゃって、おろすのが
大変だった』と、氏が得意げに語ったのを記憶している。

Aさんが内縁関係にあった間、当時の養育費10万円が滞りなく支払われたわけでもなく、
その間も浮気を繰り返し、Aさんは「お前は苦勞するように出来ている」などの暴言も受けた
。Aさんは大学院卒業まで、自閉症の子どもを抱えながら、アルバイトで学費と生活費を工

面していた。

とある。

やはり、他の人の立場に立って、モノゴトを考え、そして、責任を持って対応するか否かというモノサシが重要なのではないだろうか？

しかし、人は、そういった無責任であるのにも関わらず、傲慢な態度をする人物に、むしろ積極的に騙されてしまう傾向がある。

5)、そして、人は、騙されたり、暴力を振るわれたり、殺されたり、収奪されたりすると、復讐をしようとし、それが争いが絶えることなく続けられる原因となるのである。

罪のない人たちに対して、そういった行為を行う人たちがいるから、それがまた、振り子のように、自分たちに向かってくるのである。

2、人間は、何を生きがいにして、どう生きれば幸せなのだろうか？

人は、いろいろな新しい知識を得た時に、幸せ感を抱くことができるのは、人は、やはり知的動物だからである。それは、他人に迷惑をかけるものでもなく、自己満足の範囲であり、尊いものである。

知識は今日より明日へと増えていく。毎日、毎日、まじめに生き、その通りすがりで得ることの出来る知識をどんどん自分の中に増量して、未来の糧にすることが出来る。昨日まで知らなかったことを、今日は知っているのである。

これが、楽しいこと、幸せなのだと、認識することが大事である。

しかし、同じ知ることであっても、知識であっても、身体的痛み、精神的な苦痛を知ることは、当然、幸せといえず、不幸である。生き極楽でなく、生き地獄となってしまう。そこに、自分の中にある知識が、そういうことを回避しようと知恵を出し続けていくのである。

3、女性の社会進出が必要であるとの認識が高まってきている。

本当に女性の社会進出は、社会の平和に貢献するのであろうか。赤ちゃんは女性からでしか、生み出せない。赤ちゃんは、母親のおなかにおいて、安心感を得ているが、外界に出た時に、不安で泣き出す。そして、外界に出てから、しばらく安定が続くと、自分の頭で考えて、母親にしがみつ়くことが重要だとわかるようになる。知的進歩である。そして、だんだん成長していくのである。

大井町駅西口前に、母親とこどもの銅像がある。母親がこどもを守っている像である。こどもは、母親にしがみついている。生き残っていくためには、子供も本能的にわかっているのである。誰を頼りにしたらいいのかを。

大井町駅西口前 ブロンズ像モニュメント「平和の誓い」



母親は、本能的に、こどもを守ろうとする。全人類は、子供から成長した結果、大人になっていく。

その延長線上で、考えを深めていくと、私たち生きているすべての人々が、大切にされ、愛され、成長したいと望める環境づくりが必要である。

そこで、視野を広め、世界観まで理解が出来る、知的な女性の活躍が必要なのではないか。それは、全人類の平和と安全と正義、および全人類の発展のためという目的に向かうためである。

高橋ひろこ ホームページ taka-hiro.net